



家族の日 家族の週間

応募期間

平成29年7月1日(土)～9月8日(金)

※郵送の場合は、当日の消印有効

応募点数

「写真」「手紙・メール」それぞれ一人1点まで

表彰

最優秀作品は、平成29年11月19日(日)開催予定の「家族の日」フォーラム(福井県福井市)において表彰する予定です。

作品集

入賞作品は作品集にまとめ、入賞者及び関係者各位に配布します。また、内閣府ホームページ「家族の日・家族の週間」に掲載します。

応募先

応募要領については中面をご確認ください。

【郵送の場合】

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25
JTBビル6F

株式会社Jプロデュース内

「家族や地域の大切さに関する作品コンクール事務局」

【電子メールの場合】

kazokunohi29@jproduce.co.jp

【PCサイトの場合】

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>
(内閣府ホームページ「家族の日 家族の週間」)

その他

1. 審査の結果は、入賞者のみ本人あてに通知します。
2. 応募作品の一切の権利は、内閣府に帰属します。
3. 応募作品は一切返却しません。
4. 応募は未発表かつオリジナルの作品に限ります。
5. 応募者の個人情報の取扱いについては、「家族の日」「家族の週間」の展開に必要な範囲で利用します。応募者の同意を得ずに、利用目的を超えて利用したり、第三者に開示することはありません。
6. 電子メールによる応募の際、添付ファイルがウイルスに感染されていると作品が事務局に届きませんので、予めご了承ください。
7. 入賞者の作品に明記した情報は、「家族の日」「家族の週間」等を展開する中で、必要に応じ、利用、提供します。また、入賞作品は、内閣府ホームページ、「家族の日」フォーラム等で展示します。

【審査基準】

- (1) テーマ性(写真、手紙・メール部門共通)
 - ① 募集テーマ「家族や地域の大切さ」に則している
 - ② 明るい夢や希望が感じられる
 - ③ 作者独自の家族観・地域観がうかがえる
- (2) 表現力(写真、手紙・メール部門共通)
 - ① テーマを十分に表現し伝えている
 - ② 見る人、読む人を引き付ける魅力を備えている
 - ③ 作品としてのクオリティ
 - ④ 作品のオリジナリティが伝わってくる
- (3) 総合力
(写真部門)
写真とタイトル及びエピソードの調和がとれている
(手紙・メール部門)
 - ① 文章がわかりやすく、読み手が理解できる
 - ② 構成にまとまりがある
 - ③ 意味を十分に理解している

平成29年度

家族や地域の大切さに関する作品コンクール

写真&手紙・メール

作品募集中

【応募期間】
7/1(土)

9/8(金)



やっぱり、家族っていいね。



[11月の第3日曜日]

11月19日(日)は「家族の日」

[家族の日の前後各1週間]

11月12日(日)～25日(土)は「家族の週間」

主催

内閣府

お問合せ

家族や地域の大切さに関する作品コンクール事務局

☎ 06-4964-8864 (平日10時～17時)

電子メール: kazokunohi29@jproduce.co.jp



内閣府

やっぱり、家族っていいね。家族や地域で支える子育て



写真部門

テーマ
1

子育て家族の力 (子育て家族の絆、子供と深める家族の絆)

(例) 家族の団らん、パパの育児、3世代同居家族の様子、親子で一緒に楽しみながら何かに取り組んでいる日常の様子(食事作り、動植物の世話、楽器・スポーツの練習、語らいなど)、出産を控え家族で準備している様子等、子育て家族の絆やあたたかさ、ほほえましさを表しているもの



審査員

カメラマン
渡部陽一氏 ほか

テーマ
2

子育てを応援する地域の力 (地域ぐるみやボランティアで子育て支援)

(例) 地域と子供達とのふれあいの様子、地域での子育てイベント(お祭り、親子教室、子育てひろば、子供と他世代との交流、地域の見守り活動など)、ワーク・ライフ・バランスの取組(定時退社し子育てイベントへの参加など)、子育てサークルの様子等、地域や社会で子育てを応援しているという姿を表しているもの

応募資格

小学生以上の者(プロカメラマンは除く)

応募要領

作品には、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPC・スマホサイト(内閣府ホームページ)にてご応募ください。

- ①応募テーマ、②作品タイトル、③簡単な解説(エピソード)(100字程度)、
- ④郵便番号、住所、電話番号、⑤氏名(ふりがな)、⑥性別、⑦児童・生徒は学校名・学年、一般は年齢・職業

※2人以上を撮影した写真でご応募ください。
※応募は一人1点で、デジタルカメラ、フィルムカメラまたはスマホカメラ、携帯カメラで撮影した、カラーまたは白黒プリント、もしくはデータでの応募とします。スマホや携帯電話での画像添付による電子メールでの応募も可能です。(3年以内に撮影した写真に限ります。)

賞

募集テーマごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。いずれも内閣府特命担当大臣(少子化対策)表彰。

家族や地域の結びつきの大切さが改めて見直されている今だからこそ、子育て家族の絆と、それを支える地域での子育て支援の大切さを見つめてみませんか。あなたのあたたかい気持ちを作品にして、ご応募ください。



手紙・メール部門

テーマ

子育てを家族で支え合うことの大切さ、家族への感謝などの思いを伝える内容のもの、または、子育てを地域や社会が見守り応援する様子やその大切さを訴える内容のもの

(例) 子供から親・祖父母へ、姉姉から弟妹へ、夫から妻へ、妻から夫へ、親から子供へ、子育てを応援している社長・上司・同僚から子育て社員へ、子育てを応援する地域の方から子育て中の人へ など

応募区分

1.小学生の部 2.中学生・高校生の部 3.一般の部

応募要領

作品は、200~400文字程度で、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPC・スマホサイト(内閣府ホームページ)にてご応募ください。

- ①応募区分、②作品タイトル、③郵便番号、住所、電話番号、④氏名(ふりがな)、
- ⑤性別、⑥児童・生徒は学校名・学年、一般は年齢・職業

※スマホや携帯電話による電子メールでの応募も可能です。
※原稿用紙による応募も可能です。

賞

募集区分ごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。いずれも内閣府特命担当大臣(少子化対策)表彰。



「家族の日」「家族の週間」について

内閣府では、子どもと子育てを応援する社会の実現に向けて、子育て家族やその家族を支える地域の大切さについて理解を深めてもらうために、平成19年度から11月第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、この期間を中心として理解促進を図っています。

平成28年度 最優秀賞受賞作品

写真、手紙・メール両部門ともに、その他の入賞作品は内閣府ホームページ「家族の日」「家族の週間」をご覧ください。 <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

テーマ
1

「三世代?」四世代」でせいの」
鹿児島県 33歳男性



農業で家族を支えた祖父! 祖父の背中を見て育った父! 子育てに奮闘中の自分! そんな自分を成長させてくれる息子…四世代での子育てと支えあい。限られた時間での支え合いが素敵な時間を創ってくれます! 曾祖父の作った畑から…さてさて…何が出てくるかな?

テーマ
2

「ぼくらのドラム缶風呂」
岐阜県 67歳男性



寺子屋行事での、ドラム缶風呂体験で3人も入る楽しい風景。

作品のエピソード

小学生の部

「おじいちゃん、れきして楽しいね」

宮城県 小学3年生 男子

ぼくが、れきしずきになったのは、きよ年のたん生日の時、おじいちゃんにれきしの本を買ってもらったのがきっかけでした。
みなものよしつねを読んでいたらお父さんがおうふう平泉につれていってくれました。そして金色どうに行きました。ピカピカがやいて、こんなきれいなものがよく作れたなあと感心しました。べんけいのおはかにも手を合わせました。
だてまさむねを読んでいるときは、せんだいじょうあとと、ずいほうでんにつれていってくれました。ずいほうでんには、だてまさむね公のおはかがあります。ずいほうでんはもっと大きかったのにせんだいじょううでやけてしまいました。せん台じょうもやけてしまいました。せん台くうしゅうがあった日は、七月十日、ぼくのたん生日です。うれいしいけど悲しい日です。本丸が見たかったなあと感心しました。
おじいちゃん、ぼくをれきしずきにいちばんすきなぶししょうは、真田

中・高校生の部

「お母さんへ」

青森県 中学3年生 女子

「あやちゃん、おかえり。」ノートの文字から母の声が絵と共に聞こえてきそうだ。
共働きの為、鍵っ子になった小三から毎日母は絵日記の連絡帳を書いている。今は、八十冊目となり、我が家では「ブログ」と呼んでいる。今夜のおかずや出来事が書いてある。震災の様子・ニュース、イベントや誕生日、そして怒られる私の事も書いてある。
私は帰宅するとまず、ノートを読む。それは父も同じで、我が家の日常。夕食の時、家族でブログの内容をきっかけに会話も弾む。ブログは我が家の歴史となっている。
母に聞いた事がある。「いつまで書き続けるの?」と。母は「書けなくなるまで書き続けるよ。」と笑っていた。
スマホが普及する中、母の手書きの文字や絵から温もりを感じる。中三になった今、私はその事を感じられる。お母さんありがとう。

一般の部

「一瞬の出会い 一生の思い」

福岡県 30歳 女性

私の生まれ故郷は徳島県。嫁いだ先は福岡県。車ではフェリーを乗り継ぎ8時間。新幹線では4時間の小旅行を経て、帰省をします。
3歳の娘と1歳の息子、そして私の3人の仲間が長い旅路に向います。長旅を退屈させないためのおもちゃ、空腹時のおやつ、もしものときの着替えなど…後ろにはリュック。前には抱っこされた息子、右手には娘、左手にはカバンという大荷物での移動です。電車の席に座るのも一苦労、バスを降りるのも一苦労。
まだまだ小さいわが子たちと旅することは簡単なことではありません。しかし、苦労してまで私が長旅を選ぶには理由があります。それは、「人の温かさを感じられる」という何よりも代えがたい瞬間があるからです。旅先では毎回、必ず、見知らぬ方が声をかけてくれます。
おばあちゃんが「お母さん、大丈夫?」
スーツを着たおじいさんが「荷物ひとつ持ちましょか?」
小学生のお兄さんが「席、譲るので座ってください」
若いお姉さんが「一緒に出口まで連れていきますよ」
本当に温かい、うれしい言葉です。毎回、毎回幸せな気持ちにさせて頂き、助けを頂いております。
子連れでの移動は、色々な方に不快な思いをさせてしまったりご迷惑をおかけしてしまっていることもあると思います。それは本当に申し訳なく思います。
しかし、色々な方にお声がけいただくことで子育てを通して人の温かさに触れることができ、子育てを一生懸命頑張ろう、という気持ちにさせていただいています。
そして今、4歳になった娘が困っている方を見つけると「大丈夫ですか」と声をかけるようになりました。一瞬の出会いであるかもしれないが、出会った皆さんが娘の心を育てて下さったと思っています。本当にありがとうございます。そして私たちがたくさんの方を幸せな気持ちにさせられるような家族を目指したいと思います。